

<p>【技術の名称】 スリーエスG工法 —スラリー系機械攪拌式深層混合処理工法— (改定2)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第07-21号改2 性能証明発効日：2011年1月4日</p> <p>【取得者】 岩水開発株式会社</p>
---	--

【技術の概要】

本技術は、セメント系固化材のスラリーを吐出しながら地盤を掘削攪拌することで、柱状の地盤改良体を築造する機械攪拌式深層混合処理工法である。本工法の特徴は、スラリーの吐出口を攪拌翼の上下に設け、掘削攪拌時には下から、引き上げ攪拌時には上からスラリーを吐出させることによって、改良体の品質向上を図っていることである。本技術は、2007年11月6日に(財)日本建築総合試験所建築技術性能証明 第07-21号として性能証明されたものであり、2009年7月7日の改定では、改良体径および改良長の範囲拡大、ローム地盤の場合の施工方法の変更とこれに伴う改良体コアの一軸圧縮強さの変動係数の変更、攪拌翼を8枚とした施工方法の追加、品質管理方法の追加、小規模建築物に対する施工仕様と品質管理方法の追加を行っており、今回の改定では、改良長の範囲拡大、小規模建築物に対する配合仕様、施工径および品質検査方法の追加を行っている。

【技術開発の趣旨】

本技術は、スラリーの吐出口を常に掘削攪拌翼の進行方向前方に位置させることにより、従来の一方向吐出口の工法より強度のバラツキの少ない均質な改良体を築造可能とすることを意図して開発したものである。

【性能証明の内容】

申込者が提案する「スリーエス G 工法 品質・施工管理マニュアル」に基づいて築造される改良体は、土質に応じて $400\text{kN/m}^2 \sim 2000\text{kN/m}^2$ の設計基準強度を確保することが可能であり、その配合設計及び品質検査に用いる改良体コアの一軸圧縮強さの変動係数として、砂質土層、粘性土層およびローム層で 25% が採用できると判断される。



写真-1 最大改良長 20.5mの施工状況

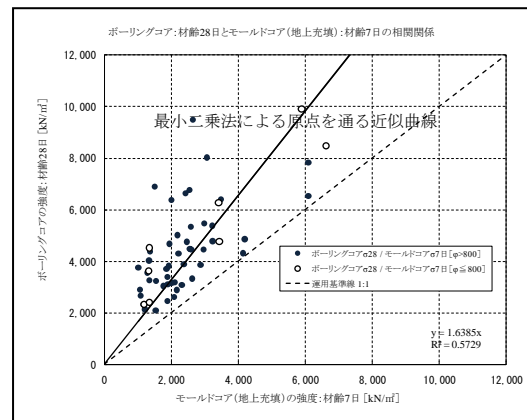


図-1 ボーリングコア材齢 28 日とモールドコア（地上充填）材齢 7 日の相関関係

表-1 小規模建築物の品質検査を行う調査箇所数（追加設定）

	設計対象層が頭部にある場合	設計対象層が深部にある場合
調査箇所数	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部コア 100 コラムに 1 箇所以上 (1 箇所当たり 3 供試体以上) かつ 1 現場に 1 箇所以上 ・深度コア 1 箇所以上 3 供試体以上 但し、改良長 $\leq 3\text{m}$、改良対象層が単一の場合は、深度コアの採取を省略してよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部コア 100 コラムに 1 箇所以上 (1 箇所当たり 3 供試体以上) かつ 1 現場に 1 箇所以上 ・深度コア 1 箇所以上 3 供試体以上
判定	Xi7 \geq Fe	

【本技術の問合せ先】

岩水開発株式会社 担当者：白神敦秀 E-mail：3sg@gansui.co.jp
〒702-8048 岡山県岡山市南区福吉町 18-18 TEL：086-265-0891 FAX：086-265-6112